

令和元年度 自己評価表

鳥取県立皆生養護学校 皆浜分校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p align="center"><b>学び 輝き 感動のある学校</b></p> <p>幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるようにする学校 《 18歳で自立できる人を育てる ～将来を見とおした今のQOLの向上～ 》</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児・児童・生徒一人一人が「いきいきと学ぶ」教育に努める。</li> <li>2 幼児・児童・生徒の健康と安全を守る。</li> <li>3 保護者の願いや地域の期待に応える。</li> <li>4 センターの機能を推進する。</li> <li>5 開かれた学校を推進する。</li> </ol>
---------------------------	--	-----------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 ( 2 ) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度の改善方策
一人一人が「いきいきと学ぶ」教育の充実	小学部 病状や実態に応じた支援や教育の工夫	○児童の不安軽減のため、場面に応じた具体的な支援を工夫することで、登校が安定し、活動の幅が大きく広がった。 ○将来の進路を見据えて、他者と協働して学習や活動に取り組む経験を広げる必要がある。	○分校内の協働的な学習や本校児童との交流を通して安心してかかわれる人や場が増え、成功体験を重ねて自信をつけ、安定した気持ちで学校生活を送ることができている。	○中学部生徒や複数の教職員とかかわりながら学習する場を計画的に設定する。 ○本校児童との交流を深め、同世代との学習に複数回取り組む。 ○保護者、医療、スクールカウンセラーとの連携を密にして病状を的確に把握し、不安がコントロールできるように支援する。	○学習発表会を通して、中学部生徒や教職員との温かなかかわりを深め、自分のよさを発揮して役割を果たすことができた。 ○ユニバーサルデザインの学習で本校に出かけ、施設・設備の工夫について説明を聞くなどして交流を深めた。取材した内容を学習発表会の学年発表に活かすことができた。 ○病状に応じて登校時間、学習内容や量などの調整を図り、保護者、医師、スクールカウンセラーと連携して対応してきたが、安定した登校には至らなかった。	B	○医師の指示を確認しながら、病状に応じた弾力的な指導・支援を継続して行う。 ○学校生活の中での新たな楽しみを見つけ、心身の安定を図る。 ○自立活動の内容を見直し、本人が病気の状態を理解し、生活の自己管理につながる指導・支援を段階的に行う。 ○本校や他校との交流を通して同世代や集団の中で活動する経験を重ね、将来への不安を軽減する。
	中学部 自己理解に基づく心の安定と意欲を高める支援の充実	○生徒に寄り添いつつ心の安定を図り、様々な取り組みをやり遂げることで自信につなげ授業への出席率が上がった。 ○苦手なことに対して折り合いをつけ、自分に合った方法を見つけて取り組もうとする気持ちにさせる必要がある。	○授業の出席率が上がった状態を維持し、進路に向けて自己の課題を認識し、自分に合った方法で苦手なことにも取り組めるようになってきている。	○アンケートを工夫し、カウンセリングや面談を通して自己理解を深める。 ○他者理解と経験を深めて、お互いを大切にしようことを学ぶために、本校生徒との交流を複数回取り組む。 ○本人、保護者、教職員が生徒の病気や学習状況を共有し、情報交換しながら個に応じた学習指導や進路指導に努める。	○アンケートをカウンセリングや面談に生かし、9割の生徒の授業への出席率が維持できている。 ○本校との交流を通して、相手のことを考えた内容の計画や実践ができた。 ○保護者や校内での情報共有を密にし教育相談等を通して個々の課題を意識させ、克服に向けて段階的に支援をすることができた。 ○ストレスを緩和の方法が少なく、苦手なことに対して自分に合った方法で取り組むことが十分にできていない。	B	○これまでの自己理解や他者理解を深める取り組みで有効であった支援について再検討する。 ○本校生徒との交流を進め、同世代でのコミュニケーション力の向上や相互理解を図る。
ニーズに対応できる専門性の向上	研究部 深い学びにつながる交流と授業改善	○児童・生徒の心の安定を図ったり、ICTを有効に活用して授業改善したりすることができた。 ○自分の思いを出せるようになってきたが、「主体的・対話的で深い学び」には実態に応じ、段階を追って取り組む必要がある。	○本校との交流が活かされている形で、児童・生徒の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業改善がなされている。	○児童・生徒の実態に応じた専門的な研修・ICT研修への参加及び授業や行事等での実践を行う。 ○皆浜分校の一員としての自覚と誇りを持つことができる学習や定期的な交流を取り入れる。	○ICTを用いた交流がスムーズに行えるように、本校と連携して機器の使い方を研修した。 ○支援部と協力しながら専門性の高まる研修を持つことができた。(発達障がい5回・ICT1回・コーチング1回) ○各自の課題解決を目指す学びの中で、個に応じた表現方法で発表等をできるように授業改善を行った。 ○皆浜分校の一員としての自覚と誇りをもつことのできる学習を進めることができた。(小学部児童は体調不良のため延期。)	B	○来年度も支援部と協働しながら、児童・生徒それぞれの成長に応じた課題に対応したり、教員の専門性を高めたりするような研修を計画していく。
	支援部 将来につながる教育相談と進路指導の充実	○研修や実践を通して病状や障がいの特性への理解、支援について共通認識ができた。 ○本校や関係諸機関と連携を密にし、適切な教育相談を行って将来を見据えた進路指導の充実を図る必要がある。	○専門性の向上により児童生徒や保護者との確かな信頼関係が築かれ、キャリア教育の視点に立った適切な進路指導により、アンケートでの満足度も高くなっている。	○教育相談、病気や障がいの特性についての研修を工夫し、専門性を向上させることで、日常の教育相談を充実させる。 ○本校、医療、福祉、スクールカウンセラー等と連携して継続的な支援を行い、卒業後を見据えた適切な進路指導を行う。	○発達障がいの研修では、スクールカウンセラーにアドバイザーとして参加してもらった。教職員の悩みや疑問への適切な助言が得られ、児童生徒との日常のかかわり方を見直すことができ、専門性の向上につながった。 ○児童生徒の病気や特性を踏まえ、医師、スクールカウンセラー、本校、福祉等、関係者と協議や相談を重ね、進路指導に活かした。 ○児童生徒や保護者に対して、個に応じた丁寧で誠実な教職員の姿勢が高く評価された。	A	○傾聴、誠実を心がけ、過支援に留意し、児童生徒や保護者と確かな信頼関係を築く。 ○病弱教育の専門性を再確認し、病気についての基礎的知識、教育相談の知識・技能、教科の指導力、日々の病状に応じた弾力的な指導、病気の関する諸制度を踏まえた進路指導等の向上をめざし、研究部と協働で研修に取り組む。 ○本校と連携し、「肢体」「病弱」の両面の研修を計画的に実施する。

様式 2

<p>学校生活における健康と安全の確保</p>	<p>健康安全部</p> <p>○心身ともに良好で、登校して学習や行事に意欲的に参加できる環境づくり</p>	<p>○緊張の連続、疲れ、不安などから学校や学習、行事などに向かえない子がいる。 ○心の問題が体に表れるので健康観察を丁寧に実施し、その日の児童生徒の心身の状況を把握し、支援する必要がある。</p>	<p>○児童生徒の心身の状況を把握することで、無理のない形で授業や行事に参加できる環境が整い、出席率が上がっている。</p>	<p>○朝の健康観察の他にも常時心身の状況を把握し、情報を共有して支援に努める。 ○安心して学校で過ごせるよう自分の心身の状況を訴えることができ、共に考え解決できるよう支援していく。</p>	<p>○時間ごとに心身の状況が変化する児童生徒の様子に教員が気づき、無理なく参加できる方法を相談しながら、児童生徒自身が登校を含めた行動を選択できるようになった。2学期以降の出席率も8割以上で安定している。 ○不安の強い児童生徒にそれぞれにあった支援をできるように共通理解を図り、教員間で連携し対応している。</p>	<p>A</p>	<p>○安心して学校で過ごせるように、自分の心身の状態を伝え、共に考え、解決できるよう支援していく。 ○保護者や関係機関と連絡を密に取りながら、児童生徒が自分の病状の理解を深め、ストレスを軽減しながら学校で過ごせるように支援していく。</p>
-------------------------	--	---	--	---	--	----------	---

評価基準 A：十分達成 [100～80%] B：概ね達成 [80～60%程度] C：変化の兆し [60～40%程度] D：まだ不十分 [40～30%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]